

平成28年度活動報告



「山の日」記念 みんなで森林づくり

林野庁 北海道森林管理局
石狩地域森林ふれあい推進センター

当センターは、都市近郊の丘陵森林、豊富な森林資源と多様な森林景観に恵まれた山岳林等にある国有林を主たる活動のフィールドとしています。

札幌市内を流れる豊平川の上流・源流部の定山溪国有林は、水源林として重要な役割を果たしているほか、ボランティア団体等の活動の場や森林環境学習の場として利用がみられるなど、市民とのかかわりが深い地域になっています。この貴重な水源林を、国民の森林として次世代へ引き継いでいくため、「札幌水源の森づくり2016」を開催しました。また、森林調査・森林観察、生態系を学ぶ活動を小学校・中学校を含む地域参加型で行うなど、「地域のもりから学ぶ森林づくり」に取り組みました。

さらに、平成16年の台風により約77haに及び風倒被害を受けた野幌森林公園において、「100年前の原始性が感じられる自然林」を目指した森林づくり「野幌森林再生プロジェクト」として、市民の皆さんと協働・連携した「団体型森林づくり」、「みんなで森林づくり」、「野幌森林づくり塾」などを行いました。

また、森林の回復状況を把握するため「野幌自然環境モニタリング」を継続実施し、今年は10年間の成果を一般市民へ情報発信する「フォーラム」を開催しました。

そのほか、当センターの活動として、様々な民間団体等からの要請に応じ、講演や協力・助言などの支援活動を行ってきました。

札幌水源の森づくりの推進

市民参加型の「札幌水源の森林づくり」

「水源の森」である定山溪国有林は、札幌市民約190万人の生活を支える水道水の源として、おいしい水を育む重要な役割を果たしています。札幌市やボランティア団体等と連携し、多くの市民の皆さんの参加を得て、「札幌水源の森づくり2016」を開催し、この「水源の森」を貴重な財産として守り育て、次代へ引き継ぐこととしています。

H28.08.27（土）札幌市の中心部で市民参加によるポット苗木づくり

札幌市の中心部、創成川公園・狸二条広場を会場に札幌市と共同開催し、北方創森塾、平岡楡の会、N T Tタウンページ(株)、森林総研札幌水源林整備事務所、国土緑化推進機構、常松学園札幌工科専門学校、酪農学園大学等の協力をいただきました。市内外から400人余りの人々が訪れ、「水源の森」現地に植栽するため再生ダンボール紙でつくる「カミネッコ」(東三郎北大名誉教授の考案)を使用してトドマツ、ミズナラ、ヤチダモのポット苗木を作成しました。



たくさんの市民が訪れました



学生によるポット苗木の作成指導



キャラクターと一緒に記念撮影

H28.07.08（金）現地に植栽した水源の森の下刈作業

毎年、市民が作ったポット苗木は、定山溪国有林に植栽してきましたが、植栽後の手入れとして下刈作業を、石狩森林管理署と協定を結んでいる「北方創森塾」との連携により実施しました。



暑い中での下刈作業



ポット苗木の植栽

H28.10.01（土）定山溪国有林内にポット苗木を植栽

今年、市民が作ったポット苗木を、定山溪の国有林に札幌市、北方創森塾、NTTタウンページ(株)、NPOシーズネット、森林総研札幌水源林整備事務所、酪農学園大学の学生の皆さんなど総勢53名で植栽しました。



無事、植栽を終了しました



作業終了後の森林散策

地域のもりから学ぶ森林づくり

定山溪国有林において地域に根ざした取り組みとして、「地域のもりから学ぶ森林づくり」を実施しました。「森林の生物多様性を学ぶ」をテーマに地元小・中学校を対象に実施した4回の森林教室及び地域住民やNPO団体等と連携し実施した「森づくり活動発表会」などを市民参加で行いました。

H28.05.12（木）第1回「森林教室」を開催

定山溪中学校の生徒が、旧スキー場跡の国有林で、カタクリ、エゾエンゴサクなど植物の種類・数を調査しました。また、学校として啓発用看板を設置するなど、植生の保全活動にも取り組んでいます。



カタクリ、エゾエンゴサクなどの保全活動



タンジェントハイトゲージで樹木の高さを測定中

H28.07.07（木）第2回「森林教室」を開催

定山溪小学校の5・6年生を対象に定山溪国有林で、樹木の高さ・太さの測定に取り組み、タンジェントハイトゲージ・輪尺などの機器を使い、樹木の観察・測定を行いました。

また、作業のあとは、遊歩道を散策し、クマゲラの食痕、カツラの巨木、森林植生など動植物の生態について学びました。

H28.07.14（木）第3回「森林教室」を開催

森林教室の新たな目玉として、定山溪中学校の生徒たちが「ゆめの森づくり」（趣旨などは次ページ）に取り組むこととし、歩道作設のための下草刈り、ポケットコンパスを使用したルート測量を行いました。



できた歩道を測量します



育てた苗を植えて森づくり

H28.09.27 (火) 第4回「森林教室」を開催

定山溪中学校で6年前から、奥定山溪の森林で採取したタネから育てていたミズナラやエゾマツでポット苗木を作り、定山溪の森林へ帰すこととしました。

現地ではポット苗木に加え、生徒が養苗したコンテナ苗をディンプルとスパードという植栽機器を使って植栽し、また、翌年以降の苗木育成のため天然に発生した稚樹の採取も行いました。

H29.02.23 (木)「森づくり活動発表会」を開催

定山溪小学校・中学校と国有林で森林整備活動を行っているNPO団体等との意見交換・交流を行うことにより、お互いの活動の活性化を推進するための場をつくりました。この発表会では、NPOシーズネット、北海道大学の学生の活動の発表と定山溪中学校から自分たちの体験から発見したことや、学んだことについて発表があり、当センターからも森林教室の取り組み報告を行いました。

発表後は、全参加者で「もりを観察、学ぶ、育てる」をテーマにパネルディスカッションを行い、有意義な時間を過ごしました。



中学生と地域やNPOの方々が集まりました

中学生が造る「ゆめの森」

これまでの森林教室からステップアップし、生徒自らが目指す森林のイメージを描き、それを実現するためには何をすればよいのか自ら考え、実行していく森林づくり(能動的学修)である「ゆめの森」づくりを始めました。



中学生が描いた「ゆめの森」



生徒の夢が実現した丸太のいす

野幌森林公園における野幌森林再生プロジェクトの展開

平成16年9月の台風18号で被害を受けた野幌の森林を、100年前の原始性が感じられる自然林に再生する「野幌森林再生プロジェクト」を平成17年度から実施しています。NPO等広く市民の皆さんの参加を呼びかけ、野幌の豊かな自然のすばらしさ、森林に関する理解の醸成や市民の皆さんとの協働による森林づくりに取り組んでいます。

団体型の森林づくり

被害を受けた人工林を自然林に再生するため、森林づくりの協定を締結したNPO、大学、企業等の団体が植栽をし、その後、保育、成長量調査等について継続的に取り組んでいます。当センターでは、団体の皆さんに対して下草刈りの方法等の技術指導や森林整備の支援をしています。

H28.06.08 (水)、07.06 (水)、団体の活動を支援

「団体型森林づくり」協定に基づき、植栽箇所の下刈などの保育作業、成長量調査などに取り組んでおり、センター職員が現地で技術指導などの支援を行いました。



「野幌森クラブ」の成長量調査



「NPOシーズネット」の下刈作業

H29.02.17 (金) 野幌森林再生活動連絡会

石狩森林管理署会議室において「団体型森林づくり」に参加している皆さんとオブザーバーとして空知総合振興局及び北海道博物館に参加をいただき、連絡会を開催しました。

連絡会では、各団体の平成28年度の活動状況を報告していただいた後、当センターから再生活動にあたっての留意点等を説明し、オブザーバーからの情報提供、続いて全体で意見交換を行いました。

意見交換では、各団体から①下草刈り・つる切り・除伐の実施方法、②成長量調査の手法・整理方法、③適地適木の考え方、④今後の協定の対応などについて出されました。



各団体からいろいろな意見が出されました

みんなで森林づくり

団体や個人等、市民の皆さん広く誰でも参加していただき、植栽を行った後、下刈の保育作業に取り組んでいます。

H28.06.22(水) 「みんなで森林づくり」

毎年、北海道博物館近くの国有林で実施しています。今年も「NPO法人北広島森林ボランティア・メイプル」の会長さんはじめ、会員の方の指導のもと、公募で募った市民のみなさんと下刈作業を行いました。

当日は、初夏を思わせる晴天のもと、防蜂網、防蜂手袋などハチ刺され対策を万全にして作業を行い、みなさん爽やかな汗をかいていました。



みんなでミーティングをします



暑い中、防蜂網を着用して作業開始

野幌^{もり}森林づくり塾

森林づくりに関する知識の習得と森林づくり体験をしながら森林と人とのかかわり等についての理解を深め、将来的には自主的なボランティア活動の展開につながることを期待した森林づくり塾を3回開催しました。

H28.05.28(土) 第1回 野幌森林づくり塾

「野幌森林公園の野鳥の見方を学ぼう」をテーマに、自然ウォッチングセンター代表の島田明英さんを講師に迎え開催しました。塾では、午前に遊歩道を歩き、ヤマガラ、オオルリなどの姿や囀りを頼りに約10種の野鳥を観察し、午後は座学で、人と森林と鳥の関係や野鳥の分類、生態などを解りやすく説明していただきました。特に、森林施業とのかかわりについては、みなさん熱心に聴いていました。



島田明英講師



まず双眼鏡の見方から



講師のガイドで野鳥を観察



西田講師の案内で石油試掘跡を見る

H28.07.02 (土) 第2回 野幌森林づくり塾

昨年、明治初期から終戦までの野幌森林公園の歴史について講義をいただいた地域史研究家 西田秀子さんに、今年は、戦後から現在に至るまでの話をさせていただきました。午後からは、公園内を歩き、新野幌開拓の痕跡がわかる跡地や石油試掘まで試みた遺構などを訪ね、今の森林からは想いもよらない風景が想像できました。

また、最後に100年を経過した旧林業試験場樹木園や東野幌に残るノハナショウブ群生地を観察し、野幌歴史の旅を終了しました。



東野幌のノハナショウブ群落



新野幌小学校跡で記念撮影

H29.03.04 (土) 第3回 野幌森林づくり塾

「野幌の巨木マップをつくろう」をテーマに、未だ現存している巨木を探し、マップを作成しながら森林と人との係わりや生態系などについて学ぶことを目的に開催し、冬の野幌をカンジキを履いて訪ね、ウ



発見、ウダイカンバの巨木



はじめにセンノキを見つける

ダイカンバ、センノキなどの巨木を発見してその大きさに驚きました。



幹周380cm直径120cmのウダイカンバ

外来種対策

H28.06.30（木）オオハンゴンソウ抜き取り作業

野幌森林公園には、特定外来植物のオオハンゴンソウが繁茂しており、北海道ボランティア・レンジャー協議会主催の抜き取り作業に参加しました。当センターは運搬車両、防蜂網を持ち込み、一般参加者らとともに、遊歩道近くなどで3万本以上の防除に取り組みました。



大変な抜き取り作業



オオハンゴンソウ山盛りのトラック

野幌自然環境モニタリング調査

野幌森林再生プロジェクトの大きな柱として、平成18年から、台風被害森林の回復状況を把握するために、学識経験者による「野幌自然環境モニタリング検討会」を設置しています。①森林植生、②歩行性甲虫、③菌類、④野生動物の4項目についてモニタリング調査を実施し、回復度の検証や野生動物の森林への影響について検討しています。さらに、今年度は、「フォーラム 野幌森林公園の今」と題して、北海道博物館と共同して、その成果を一般の方々に情報発信するフォーラムを開催しました。

H28.10.25（火）第23回「野幌自然環境モニタリング検討会(現地)」

森林再生活動を行っている現地において、再生状況を把握した後、野幌自然公園ふれあい交流館で今年度の調査状況や今後の課題について検討を行いました。



モニタリング室内検討会



委員の方が現地で検討

H29.02.10（金）第24回「野幌自然環境モニタリング検討会(室内)」

平成28年度モニタリング調査の結果報告や、平成29年度モニタリング調査の進め方などについて検討を行いました。

なお、野生動物相調査については、当センターで実施し、公園内の12箇所に6月、9月の各4週間設置し、撮影データをモニタリング調査に活用しています。



目の光ったキツネ



後ろ向きのタヌキ

フォーラム「野幌森林公園の今」～10年間の動植物調査でわかったこと～

平成28年12月4日(日曜日)、北海道博物館の講堂において開催し、150名余りの野幌森林公園に関心のある市民の方々が参加しました。フォーラムでは、北海道森林管理局 石原森林整備部長から挨拶の後、モニタリング調査の概要をセンター所長から報告しました。

続いて①「土から森を語る」と題し森林植生調査について北海道大学総合博物館 春木雅寛研究員から報告、②「野幌の外来植物など断想」と題し外来種植物について元酪農学園大学 村野紀雄さんから報告、③「野幌森林公園、10年間のオサムシ科甲虫相の変化」と題し歩行性甲虫(昆虫)について北海道博物館 堀繁久学芸主幹から報告、④「森の分解者としてのキノコの種組成を調べる」と題し菌類(キノコ)調査について北海道大学大学院農学研究院 宮本敏澄講師から報告、⑤「どんな変化があったのか-10年間にわたる野生動物の調査から」と題し森林総合研究所北海道支所 平川浩文研究専門員から報告をしました。その後、会場の方々からの質問に学識者がお答えをしながら森林再生等について話すパネルディスカッションを行いました。

今回、フォーラムを開催したことにより森林再生について、多くの方々が感心を持っていること、また、様々な視点からのご意見をいただくことができ、今後のより良い森林再生のための貴重な成果を得たと感じました。



野幌森林公園に関心のある参加者



会場の質問に答えるパネルディスカッション



春木雅寛氏



村野紀雄氏



堀 繁久氏



宮本敏澄氏



平川浩文氏

森林環境教育の推進、試験研究機関・市民団体等への支援活動

当センターでは、森林教室などの企画のお手伝いや森林に関する講演会・勉強会の支援を行っています。また、自然観察会や森づくりなどのイベントの直接指導などに加え、各種試験研究機関との連携にも取り組んでいます。

小中学校などの森林教室への支援、各種教育支援活動

H27.06.23（火）、06.25（木）森林教室へ講師派遣

千歳市立泉沢小学校は石狩森林管理署と「遊々の森」協定を結び、「かがやきの森」で活動しています。

当センターは森林管理署に協力し、森林教室に講師を派遣して支援しています。今年は4年生の測樹体験と5年生の森の探索に協力しました。生徒の皆さんは、森林教室の体験を通じて、森林の役割や大切さについて学び、考える機会になっています。



輪尺を使って太さを測ろう



看板の周りで5年生が記念撮影

H27.08.22（火）～08.25（木）インターンシップ対応

北海道森林管理局では、学生が森林管理局の実際の行政事務に接することにより、学習意欲を喚起し、高い職業意識を育成するとともに、国有林野事業及び林野行政に対する理解を深めてもらうことを目的としてインターンシップを実施しています。今年は、札幌工科専門学校生2名の方を、当センターが4日間受け入れ、森林施業のあり方や調査の方法などを体験しました。



まずはオリエンテーション



自動撮影装置を設置しています



丸太の「いす」づくり体験もしました



森林施業は良く現地を見て

市民等を対象とした森林ガイドなど

H28.07.03（木）、フォレストスクール

森林に関する普及啓発の担い手となる人材育成のため「札幌市定山溪自然の村」が開講している「フォレストスクール」において、センター職員が講師となり、樹木のメカニズム、生命力、森林植生等について講義を行いました。



森林の専門知識を学びます



森林・樹木のメカニズムの説明



倒木更新を通じた樹木の生命力を解説

H28.07.23 (木)、森林と湖とダムに親しむまつり

「森と湖とダムに親しむ旬間」の行事として、また、今年には定山溪温泉が開湯150周年になることを記念して、地域が主体のイベントが開催されました。

この行事にセンターも「山の日記念」行事として、協力し、ポット苗木の作成、植樹などの支援を行いました。



家族連れで来場、ポット苗木の植樹



山の日ノボリを立てて宣伝



定山溪ダム下流園地には多くの人が

試験研究機関ほか各種団体の活動支援



ポット苗木づくりには興味津々

H28.10.05 (土) JICA研修支援活動

札幌市近郊の国有林では、多くの研究機関や団体などから教育、研修の場として利用されています。今年の秋には、定山溪中学校の授業の一環として、JICA研修を受け入れることになり、当センターも実施に協力しました。



中学生が森づくりについて英語でプレゼン



世界各国の研修生と交流

H28.06.01（水）、10.04（火）サルメンエビネ調査

野幌森林公園の国有林に生育している希少種のサルメンエビネは、生態については不明な部分が多いことから、2010年から北海道立総合研究機構環境科学センター研究主幹の西川洋子さんが春の開花調査、秋の結実、葉の測定調査、研究を続けており、当センターは、その活動を支援・協力しています。



アカエゾマツの人工林内に生息



サルメンエビネに係るデータを集めます



サルメンエビネ(ラン科)



赤褐色の唇弁が猿の顔に見える

H28.09.05（土）ミズナラ試験地成績調査の支援

定山溪国有林には、1913(大正2年)にミズナラ種子を播種して、今年で103年生になった人工下種の人工林があります。この林分を森林総合研究所北海道支所が調査を行い、当センターが協力しました。



石橋チーム長(北方林施業管理)と打合わせ

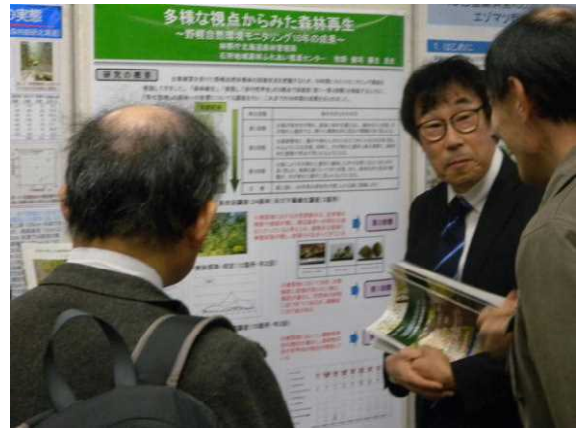


ドングリから103年で50cmの太さに

当センターの発表、勉強会の開催

H28.11.10（木）第65回北方森林学会大会でポスター発表

北海道の森林・林業の研究機関、大学関係者等が日頃の研究成果を発表する大会で、当センターから「多様な視点からみた森林再生～野幌自然環境モニタリング10年の成果～」について、会場を訪れた参加者に対して、森林再生活動に取り組んでいる状況を説明しました。



パネルの前で来場者に解説

H28.05.17（火）、05.31（火）森林植生勉強会(春期)の開催

H28.10.12（水）森林植生勉強会(秋期)の開催

森林管理署等の職員を対象として、植物観察・分類の基礎知識を学ぶ森林植生勉強会を、春に2回、秋に1回開催しました。これは、現場森林官等が日常業務で活用できるよう樹木・草花などについて当センター職員が講師となり開催しました。



春の草花をみんなで観察



秋には、果実や種子になります



ユキザサの両性花



ツクバネソウの花



ツルシキミの雌花



ユキザサの赤い果実



ツクバネソウの黒い果実



ツルシキミの赤い果実

案内図



お問い合わせはこちらまで

林野庁 北海道森林管理局 石狩地域森林ふれあい推進センター
064-0809 札幌市中央区南9条西23丁目1番10号
TEL 011-533-6741 FAX 011-533-6743
ホームページ http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/isikari_fc/
E-mail h_ishikari_f@maff.go.jp